

## にじのはしファンド サポーターのみなさまへ

いつも、あたたかいご支援をありがとうございます。

皆様のあたたかいご支援により、2014年度も多くの子どもたちをサポートできますことを、事務局一同、心から感謝申し上げます。

今回、2013年度決算報告書及び子どもたちの近況をお知らせいたします。

当会のサポート第1号の優くんは、現在、山口県内の特別養護老人ホームで介護職として元気に働いています。優くん写真入りの記事を添付しましたので、ぜひご覧ください。

HALさんは2014年3月に専門学校を卒業しました。現在は沖縄県外で希望の職種に就職して元気に働いています。新しい環境の中、社会人生活がスタートしたHALさん。期待と不安も少々あると思いますが、夢に向かって頑張っているHALさんを遠い沖縄から応援し続けたいと思います。HALさんへの2年間のご支援、本当にありがとうございました。

さやかさんは看護学校3年生となり、今年は実習や看護師の国家試験など、大変忙しく、重要な1年になるようです。また、かでかわさんは3年次に進級しました。山口での大学生活にも慣れ、今年は将来の仕事について、じっくり考える1年になりそうです。今年は2人にとって大切な1年になるでしょう。体に気をつけて、夢をつかむために頑張ってもらいたいと願っています。

愛美さんは、事情により今年度は休学することになりました。悩みの中でも保育士の夢をあきらめたくない、復学したいと願っている愛美さんを陰ながら支えることができたらと思います。愛美さんへのサポートは一時休止しますが、今後も連絡を取りながら、復学した際にはサポートを再開する予定です。

2014年度は県内児童養護施設から、新たに5名の子どもたちが沖縄県内外の大学や専門学校へ進学しました！ご紹介します。

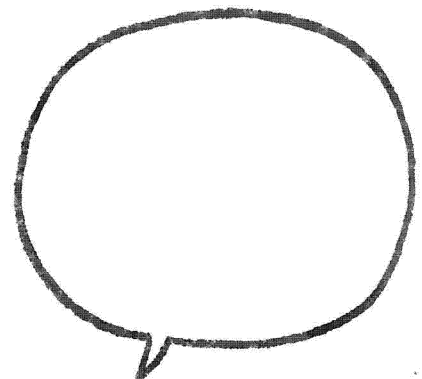
※様々な事情により仮名でご紹介する子どもがいます。ご了承ください。

### RUくん

M大学（宮崎県）に入学、農業専攻です。

卒園した施設では大好きな園芸面でリーダーシップを発揮し、年下の子たちを指導しながら畑で作物を育てました。また、料理が趣味でお弁当やおやつ作りをしていたそうです。将来の夢は農業高校教諭です。

毎月3万円を支援します。



尾崎 綾乃（おざき あやの）さん

山口福祉文化大学（山口県）に入学、児童福祉専攻です。

高校時代から常に目標を持ち、漢字検定準2級、調理技術検定4級、訪問介護員2級、サービス接遇検定2級などの資格を取得しました。また、老人ホームでのボランティア活動にも積極的に参加しました。将来の夢は、児童指導員として児童養護施設で働くことです。

毎月3万円を支援します。

崎原 未由（さきはら みより）さん

尚学院国際ビジネスアカデミー（沖縄県）に入学、社会福祉を勉強します。

最初は沖縄県外で美容関係の勉強をしたかったのですが、考えた結果、社会福祉の勉強をして、保育士資格と幼稚園教諭二種免許状の取得をめざします。将来の夢は、児童養護施設で職員として働くことです。

毎月4万円を支援します。

田原 美海（たはら よしみ）さん

沖縄大学人文学部こども文化学科（沖縄県）に入学、小学校教員養成課程で学びます。

ずっと学校の先生になりたいという夢を持ち、アルバイトをしながら塾に通い、推薦入試で大学に合格しました。将来の夢は、小学校教諭です。

毎月3万5千円を支援します。

yayoi さん

沖縄大学人文学部福祉文化学科（沖縄県）に入学しました。

ご家族の病気がきっかけで、精神的な病気と闘いながら生活している人の役に立ちたい、助けたいという気持ちが芽生え、大学で専門的に勉強することを決意しました。将来の夢は、精神保健福祉士です。

毎月2万円を支援します。

2013年度は運転免許取得のために、かでかわさんと仲宗根尚仁（なかそね なおと）くんを支援しました。仲宗根くんは、この3月に北部農林高等学校（名護市）を卒業し、4月に陸上自衛隊に入隊しました。厳しい訓練の日々だと思いますが、体には十分気をつけてほしいと思います。

にじのはしの活動も4年目に入り、サポーターも286名と大きく成長しました。皆様からの支援金につきましては、支援対象の拡大も含めて事務局で検討中です。詳細は「事務局からのお知らせ」に記載しました。ぜひ、ご一読ください。

今後とも、夢に向かって頑張る子どもたちに、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

2014年5月 にじのはしファンド代表 糸数未希

## 事務局からのお知らせ（重要）

### ●サポート事業費を事務経費に充てます

皆様からいただいた支援金のうち、2013年度から事務経費につきましてサポート事業費から充当しております。事務局として可能な限りの経費削減に努めておりますが、必要な事務経費につきましては、今年度も支援金の一部を充当いたします。また、セキュリティ強化のために書類保管も可能な金庫の購入を予定しています。皆さまのご理解、ご協力をよろしくお願い致します。

### ●愛美さんが休学しています

愛美さんが2014年4月から専門学校を休学しています。彼女は児童養護施設卒園後、家庭の事情や環境の変化などが重なり、しばらく休学することを選択しました。休学期間中は、運転免許の取得やアルバイトで学費を工面することを考えているようです。しかし、愛美さんは、保育士の夢をあきらめたくない、1年後には復学したいと希望しています。休学中は、にじのはしファンドのサポートは休止しますが、復学後はサポートを再開する予定です。事務局では年に数回、子どもたちに支援増額の案内をしています。支援金の増額や時期は個々の状況に応じて適宜行います。子どもたちが休学や退学をすること、その決断の一つひとつを尊重しながら、にじのはしファンドが必要とされれば、子どもたちが学業を続けるための支援を続けていきたいと強く願っています。

### ●支援金のさらなる活用方法について

当会の趣旨をご理解いただき、サポーター数が増えています。それに伴い、2013年度決算報告書のとおり次期繰越金が増加しています。今年度は継続支援2名、新規支援5名、計7名の子どもたちの支援を行っています。事務局では、現在サポート中の子どもたちへの支援や運転免許などの資格取得支援などに加え、今後は、ファミリーホーム（家庭的な小規模児童養護施設）や里親家庭で暮らしている子どもたちに対する支援も検討しています。皆様のご理解、ご協力に感謝申し上げます。社会的養護の下に育った子どもたちが、自らの夢や希望を実現できるために、今後とも皆様のご支援よろしくお願い申し上げます。

### ●電話番号が変更になりました

080-6482-8484<sup>はしはし</sup>（夜は午後8時まで）

※電話に应答できない場合は、こちらから折り返しお電話いたします。

①お名前 ②ご住所 ③連絡先電話番号、とメッセージを残してください。

《にじのはしファンド事務局》

〒902-0071 沖縄県那覇市繁多川4-22-6

\*連絡先住所の誤りが見受けられます、ぜひご確認下さい。

メールアドレス：[nijinohashi.okinawa@gmail.com](mailto:nijinohashi.okinawa@gmail.com)

(ニジノハシ ドット オキナワ アットマーク ジーメール ドット コム)

☆ブログは「にじのはしファンド」で検索！

子どもたちのお便りの郵送は、希望者のみに行なっています。

ご希望の方は、事務局までお電話またはメールでお知らせください。

インターネットのブログでは、いつでもお便りを読むことができます。

ブログへの読者登録をよろしくお願いいたします。

## にじのはしファンドの活動を広めてください

● お友だちをご紹介ください

児童養護施設のお子さんについて関心をお持ちの方に、にじのはしファンドの活動についてご紹介ください。ご希望の方には、事務局から資料をお送りします。

## 当ファンドの入会・退会は自由です。

\* お気軽に、事務局までメールもしくはお電話ください。

\* 退会ご希望の場合は、退会希望月の10日までに事務局にご連絡ください。

## にじのはしファンド 2013年度活動報告

	事務局	支援学生	サポーター関係
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新年度支援金送金開始(各月1日送金)</li> <li>・支援学生からのお便り公開(ブログ)</li> <li>・決算資料作成</li> <li>・ジョイネス沖縄さまの寄付先に決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新年度支援金受給開始(各月1日入金)</li> <li>・お便り送付(各月中旬頃に事務局へメール)</li> <li>・HALさん増額(2万4千円⇒3万円)</li> <li>・さやかさん増額(3万円⇒5万円)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新年度支援開始 (毎月27日口座引落、ゆうちょのぞく)</li> <li>・新規受付、変更(口数増減・カンパ、随時)</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決算報告(ペーパー、ブログ)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・決算報告書</li> <li>・学生お便り受取(郵送希望者のみ)</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボーナスキャンペーン(カンパ依頼)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援金引落日変更完了(ゆうちょ、毎月27日へ)により 全金融機関引落日27日へ統一</li> <li>・ボーナスキャンペーン</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジョイネス沖縄さま寄付贈呈式</li> </ul>		
8月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援増額相談強化期間</li> </ul>	
9月			
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度支援学生募集説明 (県内児童養護施設、～12月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規学生申し込み開始</li> <li>・かでかわさん増額(3万円⇒5万円)</li> </ul>	
11月			<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生お便り受取(郵送希望者のみ)</li> </ul>
12月			
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お年玉キャンペーン(カンパ依頼)</li> <li>・次年度新規支援学生面接</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・お年玉カンパ</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度新規支援学生決定</li> </ul>		
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末締め(各金融機関の口座記帳)</li> <li>・壮行会参加 (石嶺児童園、島添の丘、美さと児童園、なごみ)</li> <li>・次年度新規支援学生紹介(ブログ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援増額相談強化期間</li> <li>・HALさん卒業、支援終了</li> <li>・仲宗根尚仁くん運転免許取得支援(10万円)</li> <li>・友寄愛美さん休学(2014年4月から支援休止)</li> </ul>	

# にじのはしファンド

## 2013年度 決算報告 (2013年4月1日～2014年3月31日)

### 収入の部

科目	2013年度予算	決算額	増減	備考
会費収入	3,480,000	4,687,000	1,207,000	会員増加によるもの
寄付	1,000,000	1,495,528	495,528	
利息	210	289	79	
前期繰越金	6,140,607	6,140,607	0	
合計	10,620,817	12,323,424	1,702,607	

### 支出の部

科目	2013年度予算	決算額	増減	備考
事業費	2,680,000	2,000,000	-680,000	資格取得(△800,000円) 増額分(120,000円)
引落手数料	302,400	296,775	-5,625	会員増加による
システム利用料	12,600	12,000	-600	
通信費	54,000	45,147	-8,853	切手代(メール報告による削減)
事務用品	20,000	13,796	-6,204	メール報告による削減
印刷費	5,000	2,224	-2,776	メール報告による削減
交通費	5,000	700	-4,300	希望者減(△3名) 一部事務局負担
次期繰越金	7,541,817	9,952,782	2,410,965	
合計	10,620,817	12,323,424	1,702,607	

金融機関名	残高
琉球銀行	2,783,755
沖縄銀行	44,246
海邦銀行	19,894
ろうきん	62,922
ゆうちょ	7,041,965
合計	9,952,782

# 監 査 報 告 書

にじのはしファンドより要請のありました2013（平成25）年度の会計について、  
2014年5月17日（土）に監査を実施いたしました。

1. 収入については、徴収台帳と照合したところ、一致していることを確認しました。
2. 支出については、サポート事業費として適正に支出されており、残金が以下の  
預貯金口座に保管されていることを確認しました。

琉球銀行	寄宮支店	2,783,755 円
沖縄銀行	崇元寺支店	44,246 円
沖縄海邦銀行	寄宮支店	19,894 円
沖縄県労働金庫	本店営業部	62,922 円
ゆうちょ銀行		7,041,965 円
	合計	9,952,782 円

上記の通り監査結果を報告いたします。

2014年5月17日

にじのはしファンド  
代表 糸数 未希 殿

2013年度監査

本永和久 

## 2014年度 にじのはしファンド 年間計画案

	事務局	支援学生	サポーター関係
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新年度支援金送金開始(各月1日送金)</li> <li>・支援学生からのお便り公開(ブログ)</li> <li>・決算資料作成</li> <li>・定例会(毎月第3土曜日)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新年度支援金受給開始(各月1日入金)</li> <li>かでかわさん(5万円)、さやかさん(5万円)</li> <li>RUくん(3万円)、あやのさん(3万円)</li> <li>yayoiさん(2万円)、みよりさん(4万円)</li> <li>よしみさん(3万5千円)</li> <li>・お便り送付(各月中旬頃に事務局へメール)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新年度支援開始(毎月27日口座引落)</li> <li>・新規受付、変更(口数増減・カンパ、随時)</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決算報告(ブログ公開及び文書郵送)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・決算報告書</li> <li>・学生お便り受取(郵送希望者のみ)</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボーナス・キャンペーン(カンパ依頼・受付)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボーナス・キャンペーン</li> </ul>
7月			
8月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援増額相談強化期間</li> </ul>	
9月			
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度支援学生募集説明(県内児童養護施設)</li> <li>・次年度支援学生受付・面接(~3月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援申し込み・面接(~3月)</li> </ul>	
11月			<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生お便り受取(郵送希望者のみ)</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボーナス・キャンペーン(カンパ依頼・受付)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボーナス・キャンペーン</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お年玉キャンペーン(カンパ依頼)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・お年玉キャンペーン</li> </ul>
2月			
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新年度支援学生最終人数決定</li> <li>・年度末締め(各金融機関の口座記帳)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業(支援終了、1名予定)</li> <li>・支援増額相談強化期間</li> </ul>	



# にじのはしファンド

## 2014年度 予算案 (2014年4月1日～2015年3月31日)

### 収入の部

科目	2013年度 予算	2013年度 決算額	2014年度 予算	差額 (昨年度予算)	備考
会費収入	3,480,000	4,687,000	5,640,000	2,160,000	サポート口数 (@1,000×470口)
寄付	1,000,000	1,495,528	1,000,000	0	
雑収入	210	289	300	90	利息
前期繰越金	6,140,607	6,140,607	9,952,782	3,812,175	
合計	10,620,817	12,323,424	16,593,082	5,972,265	

### 支出の部

科目	2013年度 予算	2013年度 決算額	2014年度 予算	差額 (昨年度予算)	備考
事業費	2,680,000	2,000,000	3,360,000	680,000	7名(255,000円/月)+ 資格取得300,000円
引落手数料	302,400	296,775	336,000	33,600	サポート会員数 @100円×280名
システム利用料	12,600	12,000	12,000	-600	
通信費	54,000	45,147	59,400	5,400	電話代(1,500円/月) 切手(92円*450名)
事務用品	20,000	13,796	140,000	120,000	備品(金庫)・事務用品
印刷費	5,000	2,224	5,000	0	決算書類、お便り
交通費	5,000	700	5,000	0	支援希望者面接、壮行会 (往復1000円*5回)
次期繰越金	7,541,817	9,952,782	12,675,682	5,133,865	
合計	10,620,817	12,323,424	16,593,082	5,972,265	

# 奨学金が夢つなぐ

南城市にある児童養護施設「島添の丘」を卒業した後高西優さん（山口県萩市）が、2013年4月から山口県社会福祉事業団で働いている。経済的な理由などから、児童養護施設卒園生の大学進学率が沖縄県平均に比べて低い中、後高西さんは「島添の丘」卒園生で初めて4年制大学を卒業した。生活費の捻出が難しく、挫折しそうな時期もあったが、NPO「にじのはしファンド」（系数末希代表）の奨学金を受けて大学生活を継続。「学業に専念できた。ファンドの人たちとのつながりが心の支えになった」と美感を込める。

## 後高西 優さん 「島添の丘」卒園

特別養護老人ホームで、高齢者のケアに当たる後高西優さん（左）＝13日、山口県萩市の特別養護老人ホーム「オアシスはぎ園」



## 「にじのはしファンド」支援

ファンドは11年1月、児童養護施設などから大学・専門学校に進学したり、資格取得に励む若者へ経済的な支援を目的に発足した。代表の系数さんと当時、山口福祉文化大学2年生だった後高西さんとの出会いが設立のきっかけだった。系数さんは、学業とアルバイトの両立が厳しくなっているという後高西さんの窮状を施設から聞き、ファンドを立ち上げ、生活費月額5万円の送金を始めた。

そんな中、生活費の支援が始まり、ファンドのブログで他の奨学生の近況を読んだ。障がいのある子どもたちや、着実に成長する姿に心を揺さぶられた。特別養護老人ホームで介護職として働いているが、将来は同じ事業団が運営する障がい児の保育施設で働きたいと願っている。「子どもたちと同じ目線に立って成長を支えたい」。未来を描き、夢を膨らませている。（高江洲洋子）

後高西さんは母親が病気のため家庭で暮らすことができず、1歳半から高校卒業まで「島添の丘」で育った。保育士を志して大学へ進学。授業料は学費減免制度を活用し、日本学生支援機構の奨学金と飲食店のアルバイト収入で生計を立てた。故郷を離れた生活、保育士資格に必要なピアノの演奏が上達せず、心が折れそうになる時期もあった。

# 養護施設や里子ら支援

# 車免許費10万免除

児童養護施設や里親家庭、ファミリーホームで暮らす青少年の自立を支援しようと、普通自動車の運転免許取得費用の一部免除が県内で4月1日から始まる。県内21カ所の教習所で行く県指定自動車学校協会（小渡重会長）と県が協定を結び、各教習所が1人当たり10万円を免除する。養護施設だけでなく、里親家庭やファミリーホームまで免除対象を拡大した制度は全国でも例がなく、先駆的な取り組みとして注目を集めてきた。

## 4月から21教習所と県協定

県児童養護協議会の玉城孝会長（鳥添の丘施設長）は「車社会の沖縄では運転免許がないと就職の選択肢

が狭まる。免許費用を捻出するため、部活動を辞めてアルバイトする子どもたちもいた。費用免除は、大き

く40人と想定。免除総額は

な後ろ盾になる」と歓迎している。

県里親会の比嘉朝文会長は「行政や民間企業に感謝したい」と述べた。

県は免除対象者を年間30

年間最大400万円程度になる見通しだ。

県指定自動車学校協会と県は一部免除に関する協定

書を2月4日に締結する。同協会によると、免許取得費用は通常24万25万円かかる。現行制度では、県が施設や里親家庭などに支給する「資格取得特別加算」5万5千円が免許取得費用にも充てられているが、十分な額ではなかった。

これまで子どもたちは高校に通いながらアルバイトをして費用をためたり、里親が費用を工面したりする現状があり、免許費用への支援が長年の懸案となっていた。県青少年・児童家庭

課が昨年2月に同協会に一部免除を働き掛け、協議を続けてきた。

同協会は昨年12月に開いた代表者・管理者会議で免除制度の導入を決めた。原則として、1教習所当たり年間2人を受け入れる。免除は毎年継続する。同協会の下地一彦専務理事は「県から子どもたちを取り巻く環境の厳しさを聞き、少しでも支援がしたかった。地域に密着して社会に貢献したい」と話している。

（高江洲洋子）

戦後十数年たつたころ、重里に長門次席の小学生がいた。担任が家を訪ねると、父親は病に床し、母親は出稼ぎで不在。本

人は織ひひの縁を編んでいた。おなかだけ膨れた。姉弟は来真失調だった。この話を聞いた那覇市議の故・野崎文彦さんは、厳しい境遇の子を救いたい。地域の女性たちと呼び掛け「里親養育母の会」をつくった。毎月10万円（当時10万円）を節約して養育金に充てる。会員800人が26年間で約280人を救えた。母親たちの熱い心を継ぎたいと活動しているのがNPO「ひびのまひん」だ（16日）。児童養護施設を18歳で巣立つ生徒の中には、実力があっても経済的理由で進学を諦める子も多い。その夢を後押ししようと、代表の糸数未希さんが同級生らと立ち上げた。原籍は毎月10万円の滞村。知人や親戚の声を掛けて始まった活動は、3年で300人にまで広がった。社員40人が入会した大阪の会社もある。これまで6人を支援した。給付額は1人1人相談して求める。バイトなど自立の機会を奪わないためだ。学生らは近況を毎月ブログに寄せ、一方通信にはしない。「おじさんおばさんからの仕送りのもつなもの。この10日は17もたちを未来にひなぐ10日以上の価値がある」と糸数さん。4月からは新たに5人が給付を受ける。夢を環へまた集つもの町の晴が架がる。

金口木舌

琉球新報 2014. 3. 20

## 県内児童養護施設出身者

# 大学・短大進学11%

## 過去5年 本紙調べ 経済的問題が影響

県内の児童養護施設出身者の過去5年にわたる大学・短大への進学率は平均11.2%にとどまり、県全体の平均37%を26%下回ることが、琉球新報の調べで17日までに分かった。3月、県内にある全8児童養護施設を対象にアンケートした。施設出身者の進学率が低い理由について、7施設が学費準備の難しさを挙げた。親の支援が得にくい境遇の中で、経済的な問題が進学のを阻んでいる実態が浮き彫りになった。

(25面に関連)

た。さらに施設から退所する時の課題、自立に向けた必要な支援などを尋ね、全施設から回答を得た。

5年間で高校卒業に伴い107人が施設から退所し、このうち23人が進学した。進学者の内訳は短大・大学12人、専門学校11人。グループホーム入所などその他は7人だった。就職者は77人だった。

専門学校への進学は10.2%で、県平均25.7%を15.5%下回った。一方、就職と答えた。(高江洲洋子)

は72.0%で県平均(14.4%)を大きく上回った。学費が準備できずに、最初から進学を諦めた人は4人、中途退学は2人いた。

学費の調達方法を複数回答で聞いたところ、「NP0にじのはしファンドの奨学金」(6施設)、大学の減免制度(5施設)や日本学生支援機構(5施設)など奨学金の活用が多かった。4施設は「卒園者本人がアルバイトをして準備」と答えた。(高江洲洋子)

用語

児童養護施設 保護者のいない児童や、親の病気や虐待、生活困窮などさまざまな事情から保護者に養育させることが難しい児童を受け入れて養育する人所施設。生活指導や学習指導を通して、児童の心身の健やかな成長と自立を支援する。児童福祉法では高校卒業後の原則18歳で、施設を退所しなければならぬ。

琉球新報 2014. 5. 18

## 進学意欲の育成を

あれば、将来の仕事がイメージできるようになり、頑張ろうという気持ちになれる。

人生の種まきをしっかりしておかないと、制度だけ整えても意欲が伴わない。児童養護施設、里親

児童養護施設や里親家庭で暮らす子どもたちに進学できるだけの学力を付けさせる前に、希望と可能性を持たせることが大事だ。中学校時代に、さまざまな職業に就いている社会人の話を聞く機会が

会、県社会福祉協議会が軸になって「中学生未来塾」のような組織をつくり、施設の子どもたちや里親の集まりに、社会人講師を派遣する方法もある。

アンケートでは、自立に当たり

学費の確保と保証人の不在、精神的なケアが課題として挙げられた。

まずは、県立高校の介護福祉コースなど職業教育を充実させ、高卒できちんと就職できるようなコース設定が必要だ。その上で、短

加藤彰彦氏 (沖大名誉教授)

大・大学への学費については、社会的養護が必要な子どもを対象に沖縄大学が始めた奨学金制度を他大学で広げていただくことも一つの方法だ。県が成績優秀で目的がはっきりしている人を対象に、奨学金や生活費を支給する制度をつくってもいい。

篤志家や民間企業に賛同を求め、遺児支援に取り組み「あしなが育英会」のような団体をつくり、賃貸住宅の保証人を支えるなど、子どもたちの自立を応援する動きをつくる必要がある。

(談、児童福祉論)

琉球新報 2014. 5. 18

# 保証人不在 自立阻む

## 住居や就職、厳しい現実

### 児童施設出身者

児童養護施設で暮らす子どもたちは、親の支援を得にくい上に、高校卒業の原則18歳で施設を退所し、「自立」を求められる。琉球新報が県内の全児童養護施設を対象に実施したアンケートでは、学費の準備、住まいの確保、保証人の不在など、自立を阻む厳しい現実が立ちはだかっていることが浮き彫りになった。

自立に向けて必要な支援を複数回答で聞いたところ、7施設が「保証人に対する公的支援」「国の就職・進学支度費の増額」「卒園後のアフターケアに対する費用助成」を挙げた。また、6施設が「進学者に対する学費の支援」を求めた。

退所後の若者が就職を前に暮らす場所、県内に1カ所ある「自立援助ホーム」について、調査では5施設が増設を求めた。島添の丘は県に対して、20歳まで施設生活ができる「措置延長」の積極的な実施を求めた。

アンケートでは、退所に伴う課題として「学費の確保」(7施設)に続き、6施設がアパートや携帯電話の契約、就職などで必要になる保証人の不在を挙げた。同数の6施設が頼れる身内がないために「精神的な不安を抱えている」と回答。自由記述では、愛隣園と青雲寮が「アパート入居時の資金確保」を課題に挙げた。

を占めるとの回答があった。住まいの確保と就職先の選定がセットになり、就職の選択肢が狭められている傾向がうかがえる。若者の自立支援に詳しいリージョナルスタンダード代表社員の高目宗さんは「生きていくための条件整備が優先されると、夢がどんどん遠のいてしまう」と指摘する。アパート契約の際に保証人が見つからない場合は、施設長が保証人を肩代わりしている実態もあった。

虐待や親の病気、経済苦などさまざまな事情から家庭を離れ、児童養護施設で暮らしてきた子どもたちの進学率が低い背景には、施設出身者が抱える特有の課題が絡み合っている。親から経済的援助や精神的な励ましを得にくいため、一般家庭に比べ、出発時点から圧倒的に不利な立場に置かれている。

施設入所以前から学習習慣が身に付いていない子どもも多く、学力不足が壁になり進学を選択する人は少数派。その中で進学を希望する場合、今後は学費の準備が壁になる。通学しながらアルバイトをして学費と生活費を稼ぐという厳しい道を歩むことになるため、進学を諦めて就職を選ばざるを得ない傾向がある。アンケートでは、アパー

ト契約時の保証人の不在、入居時の資金確保を課題に挙げる施設も多かった。3月に施設を退所した23人に限ってみても、半数の12人は親元に戻っていない。10代では民間アパートの契約が難しいことから、寮付き

の業種に就職する人も多い。進学、就職ともに選択肢が著しく狭められている。近年、厚労省は自立支援に力を入れ、最大で約26万8千円の支度費を支給しているが、多額の学費支払いと新生活を始める費用とし

て十分とはいえず、増額が必要だ。アパートの契約や就職時に必要な「保証人」を公的機関が肩代わりする仕組みづくりも急務だ。児童養護施設や里親家庭の子どもを対象に、沖縄大学が創設した授業料の全額減免

制度が他大学へ広がれば進学の後押しになる。子どもたちが夢を描き、社会人として自立できるようにするために、官民一体となって進路の選択肢を増やす手厚い支援が求められている。(高江洲洋子)